

## 人権教育に関する特色ある実践事例

基準の観点	学校全体として人権尊重の視点に立った学校づくりが組織的かつ効果的に進められている実践事例
-------	--

### 1. 基本情報

都道府県名及び市町村名

秋田県由利本荘市

学校名

由利本荘市立小友小学校

学校のURL

小友小ブログ <http://otomosyo.blog59.fc2.com/>

小友小ホームページ <http://www.city.yurihonjo.akita.jp/edu/otomo-es/>

### 2. 学校紹介

学級数

【通常の学級】各学年1学級 【合計】6学級

児童生徒数

【全児童数】108人(平成23年11月30日現在)

(内訳:1年生19人,2年生20人,3年生20人,4年生14人,5年生19人,6年生16人)

学校の教育目標、人権教育に関する目標など

【学校の教育目標】

「美しい心 よい学び つよい体の小友の子」

【人権教育に関する目標】

(基本目標)

「人権に関する知的理解の深化」「人権感覚の育成」

(重点目標)

「互いのよさを認め合い協力できる態度の育成」

「他の人とともによりよく生きようとする態度の育成」

「集団生活における規範等を尊重し義務や責任を果たす態度の育成」

「人権教育の視点に立った道徳の時間等の指導法の工夫」

人権教育にかかる取組の全体概要

学校の教育活動を通して人権教育の充実を目指すための教育課程の見直し

・人権教育の目標と道徳教育,特別活動の目標やねらいとの関連を明確にし,人権に関する意識・態度,実践力を養う人権教育の展開

人権尊重の理念に立った生徒指導の在り方

・「自己存在感・自己有用感を与える」「共感的人間関係を育成する」「自己決定の場を与える」の生徒指導の三機能を生かすとともに「自分の大切さと他人の大切

さを認めることができる人権感覚」の育成

- 人権教育推進に関する児童へのアンケートの実施及び結果の分析活用
- ・人権教育を通じて培われるべき知識的側面，価値的・態度的側面，技能的側面の資質能力の実態把握と課題改善
- 人権宣言を大切にす生徒を育てる指導の工夫
- ・「人権集会に向け、人権宣言の達成を目指す取組の設定」と「願いをもって呼びかける係・委員会活動」と「事実を基に自他のよさを認め合う場の設定」

### 3. 特色ある実践事例の内容

人権が尊重される教育の場としての学校づくり

#### 取組のねらい

本校の道徳教育のねらいは「よく考え，よりよく生きようとする子どもの育成」で，重点の中に「生命を尊び，自分や友達のよさを見つける子ども」「友達を大事にし，思いやりのある子ども」を掲げている。また，特別活動では，「望ましい集団活動を通して，よりよい学校生活を築こうと進んで活動する子どもの育成」を目標に「友達と協力し，身のまわりの問題を解決する力の育成」を重点の一つとして挙げている。これらは，人権教育を通じて育てたい資質・能力である「自分の人権を守り，他者の人権を守るための実践行動」に深く関わっている。そこで本校では，「人権が尊重される教育の場としての学校づくり」を実現するために道徳教育や特別活動を中核に置いて人権教育を推進したいと考えた。

#### 取組の内容

(1) 人権に関する知的理解を進めるための道徳コーナー

道徳的心情を育てるために平成22年度から始めた。月毎に，各学団部でテーマを決めて道徳コーナーに掲示している。



あいさつはみんなを~にするまほうです。



たったひとつが~こんなに大きくなったよ



自分の良いところは?



いま 生きているわたしを感じよう



千里の道も一歩から

(2) 人権感覚を育成するための道徳の時間

#### 実践例1 (2年生)

「家族のために~おつかいマン」(4-(3)家族愛)

「主人公『ぼく』の気持ちの変化を通して、自分から進んで家の手伝いなどをして、家族の役に立つ喜びを味わおうとする心情を育てる」をねらいとしている。ゲームの一番いいところでお母さんにおつかいをたのまれたぼくは、いろいろ迷った末おつかいに行くことにした。おつかいに行ったおかげで、家族みんながおいしい夕ご飯を食べることができ、おつかいに行ってきたと思う「ぼく」のお話である。終末で子どもたちから「せんたくものをたたんだらお母さんがよろこんだ」「トイレそうじをしたらお父さんがうれしそうだった」という発表もあり、本時の学習を通して「これからも自分にできることをしておうちの人の役に立ちたい」という意欲をもつことができた。子どもたちが初めて出会う社会である家庭で自己有用感を得ることは人権感覚を育成する第一歩になると思われる。



### 実践2（3年生）

「あらそい」(1-(4)反省, 誠実・明朗)

「自分の行動をよくふり返って反省し、あやまちは素直に改めようとする気持ちをもつ」をねらいとしている。主人公は、隣の席の友達にわざとではないがノートをよごされたことに対して仕返しをしたことで、帰るときまで暗い気持ちで過ごした。しかし、隣の席の友達から仲直りしようと言われ気持ちが晴れるという内容である。子どもたちの本音と経験を引き出しながら主人公の気持ちに迫り、友達とよりよく生きていこうとする心情を育てる礎を築くことができた。

以上は道徳の学習のほんの一部であるが、これからも1時間1時間の道徳の授業を蓄積し、人権に関する意識・態度、実践力を養っていきたい。



どうとくノートへのシートの蓄積

### (3) 縦割り活動の推進

「縦割りでの集団活動を通して異学年間の交流を深めるとともに、思いやりや助け合いの気持ちを育む」というねらいをもって年間を通して活動を行っている。

具体的な活動内容

月2回～縦割り給食・縦割り遊び・縦割り清掃



人権擁護委員の方々

(第2・第4木曜日)

月1回～愛校日の外清掃活動

人権の花の植栽活動

運動会における「全員リレー」「応援合戦」

チャレンジ集会 等

縦割り活動の実際(人権の花の植栽活動より)

人権擁護委員の方々

「人権の花 笑顔とゆめで咲かせよう!」というテーマをもって、6月23日に植栽式を行った。雨のため当初の予定を変更しなければならないところもあったが、準備をするときに6年生が、後片付けをするときには5年生が効率よく働いたのでスムーズに式を進めることができた。式の中で協議会の会長さんが人権の花を植えたり世話をしたりする意義について分かりやすく話して下さり、子どもたちもうなずきながら聞いていた。苗を植える場面では縦割り班の中で、上の学年が下の学年に教えながら作業していた。上の学年の子どもがやさしい気持ちをもって下の学年の子どもに接している姿は縦割り活動のねらいに即したものである。毎朝、自分の名前をついたプランターを探して水をかける様子はほほえましく感じられる。学校が休みの日は、近所の方が人権の花に水をかけてくださっていた。これも人権の花の力だと思った。朝の登校時に水やりを継続したり、人権の花の写生をしたりしながら大事に育てることができた。



子どもたちの声から

- ・ずっときれいなお花が続くようにお世話していきたいです。
- ・ぼくは人権の花にたくさん水やりをして枯らさないようにします。
- ・会話をするようにていねいに世話をしています。
- ・大きくなっていっぱいお花咲かせてね。楽しみにしています。
- ・人や植物に対して思いやりの心をもって1日1日を大切にしていかなければと思います。
- ・人権の花を育てるように、友達に思いやりの心を持ちたいです。

(4) その他の活動や取組

P T A文化部主催「家族ふれあい学級」における講演会

保護者と児童がお話を聞いたりスポーツをしたりしながら親子の絆を深めようというねらいをもった事業で毎年行っている。今年度は「こんな親でごめんなさい」という演題でボランティアサークルを主催している方と進行性筋ジストロフィーのため車いす生活をしている方お二人に講演していただいた。

子どもたちの感想から

- ・あきらめなければ、歌手になったり絵を描いたり結婚して子どもに恵まれたりして、幸せに暮らすことができると思った。
- ・二人の話を聞いて、体が不自由な親や我が子をとともかわいがっている親など、いろんな親がいるんだなと思った。親は自分のためにいろんなことをしてくれていることが分かった。
- ・体が不自由でもできることはたくさんあることが分かった。
- ・つらいこと、いやなことがあっても二人とも前向きに生きていることに感動した。
- ・わたしもつらいことがあっても明るく生きていこうと思った。
- ・親はぼくたちに何かあったときは自分が犠牲になって守ってくれることが分かった。
- ・筋ジストロフィーという病気を抱えていても人生を一生懸命生きていることがすごい。

4年総合的な学習の時間「身近な福祉」

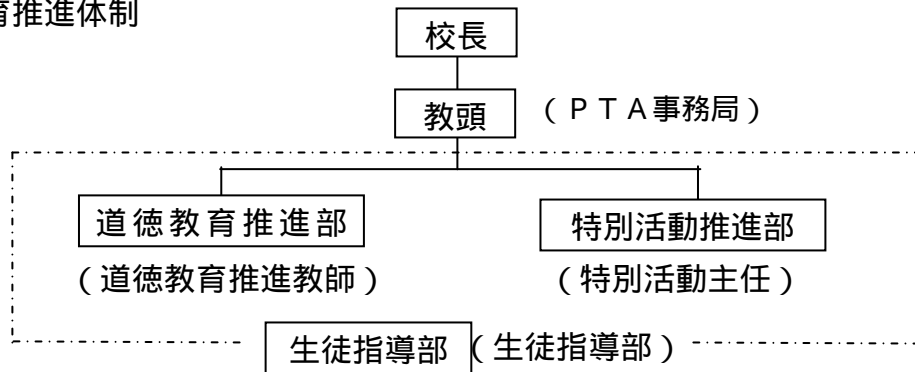
親子でお菓子を作り、デイサービスセンター「ふれあいの泉の里」に持って行き、利用者のお年寄りに食べていただきながら交流した。利用者スタッフの皆さんに温かく迎えていただいたことで相手意識をもって交流することができた。また、身近な福祉を考えようとする態度の育成にもつながった。



青少年健全育成に係る標語コンクールへの応募作品から

- ・ 見てるだけ それも一つの いじめです
- ・ 友達を いじめる弱さに さようなら
- ・ いじめだめ 言える勇気を 大切に
- ・ ありがとう みんな大好き その言葉
- ・ 大丈夫 その一言で いじめゼロ
- ・ たいせつな 友達どうし たすけあおう
- ・ 思いやる 心ひとつで みな笑顔
- ・ おはようと 一言だけで 晴れやかに

人権教育推進体制



4. 実践事例の実績、実施による効果

(1) 取組の実績

「人権に関する理解」が深まっているか、また「人権感覚」が育成されているかどうかについて3年以上の児童に対してアンケート調査を行った。

人権の理解について

項 目	あてはまる・ややあてはまる(%)	結 果
1 人間はだれでも生き生きと生活ができるはずだと思う。	91.3%	1から3については、9割を超えていて理解は深いといえるが、4については、学年を問わずポイントが低く、周知されていないことが分かる。
2 考えや感じ方には、人それぞれ違いがあってよいと思う。	97.1%	
3 他人の人権を侵害することは、どんな理由があっても行ってはならないと思う。	94.2%	
4 人権の大切さについては、憲法などの法律にも示されていることを知っている。	53.6%	

自分のよさや大切さについて

1 自分のよいところを知っている。	84.0%	自分をほぼ肯定的に捉えていると思われる。
2 自分が困っているときはまわりに助けを求める。	69.5%	
3 自分のことを大切にして生活している。	81.1%	

### 友達等のよさや大切さについて

1	友達のよいところに学ぶことがある。	91.3%	友達など周囲の人に学んだり友達を大切に思ったりしているが、実際に困っている人を助けるというポイントは若干低い。
2	先生や家の人のよいところに学ぶことがある。	92.7%	
3	まわりに困っている人がいたら助ける。	81.1%	
4	自分と同じように相手のことを大切にしている。	92.7%	

### 社会的行動面について

1	自分の考えや気持ちを、友達や先生によく話している。	75.3%	思いはあっても、自分の気持ちを相手に伝えたり行動に移したりすることがあまりよくできていないと考えられる。
2	勉強などのとき、友達や先生の話をよく聞いている。	86.9%	
3	誰かがつらい思いをしているとき、いっしょに考えるようにしている。	86.9%	
4	だれかがいじめを受けているとき、それを止めるようにしている。	78.2%	
5	友達同士の間で問題が起きたときに、それに向き合って話し合うようにしている。	81.1%	
6	相手と対立したとき、相手の立場を尊重して解決しようとしている。	81.1%	
7	地域や社会の活動に協力し、よりよい社会づくりに参加したい。	86.9%	

### 体験について

1	自分がだれかにしていることで、その人に喜ばれていることがある。	82.6%	自分の行動が社会にどんなふうに関わっているのか分からない児童が多いということが分かった。
2	自分のしていることで、地域や社会に関わっていることがある。	63.7%	
3	友達がまちがっていたら注意する。	85.5%	
4	今している勉強は将来役立つと思う。	95.6%	
5	地域の行事に積極的に参加している。	86.9%	

### (2) 取組の実施から得られた知見・経験により改善を図るべきと考えた事項

- ・ 人権の大切さについて、憲法や法律にも示されていることを高学年の社会の学習を待たずに、学年に応じて学ばせる必要がある。
- ・ 自分が困っているときに助けを求めたり、自分の考えや気持ちを友達や先生に伝えたりするなどのポイントがあまり高くない。このことからコミュニケーションを図ろうとする気持ちが弱かったり、コミュニケーションのとり方が分からないで困ったりしている姿が浮かんでくる。コミュニケーションスキルを身に付けることも人権感覚を育む上で有効である。
- ・ 「自分のしていることで、地域や社会に関わっていることがある。」の項目のポイントが低いのは、人権に関する活動経験不足にあると考えられる。また、実際、活動をしていてもその活動がどのように社会に役に立っているのか分からないのは、知識不足だからであることも否めない。人権について意図的に学ぶ機会を設定する必要性を強く感じた。

## 5. 実践事例についての評価

(1) 取組についての評価，及びそう評価する理由

- ・ 4段階（A・B・C・D）のBとする。
- ・ 取組や活動については充分だと思うが，それらを教育課程へ位置付けたり，系統付けたりすることにおいて不十分である。年間指導計画の作成が急務である。

(2) 現在，実施に当たって課題と感じていること

- ・ 人権教育の推進に関し，学校と家庭・地域，関係諸機関との連携・協議の場をもち，学校での取組についての理解を図り，協力を求めている。協力をお願いしなければならない。
- ・ 人権教育に関する理解と指導方法の改善のための教職員研修を進めなければならない。
- ・ 人権教育の取組の評価に当たり，今後，保護者や学校評議員や学校関係者評価委員等，学校外の方々の意見評価を反映していかなければならない。

## 【 人権教育の指導方法等に関する調査研究会議によるコメント 】

由利本荘市立小友小学校

人権教育の目標を「知的理解の深化」「人権感覚の育成」と明確に位置付け、自他の人権を守ろうとする意識・意欲・態度、実践的な行動力などの育成のために四つの重点目標を設定して、学校全体で組織的に実践している事例である。

人権教育と道徳・特別活動との関連を明確にして教育課程の見直しを実施したこと、生徒指導の三機能を生かし人権尊重の理念に立った生徒指導を展開していること、が特徴であり、人権が尊重される教育の場としての学校づくりが学校全体で展開されている。

また、知識的、価値的・態度的、技能的の三側面から児童にアンケートを実施した結果、知的理解深化のための学習機会設定の必要性やコミュニケーションスキルを身に付けさせること、体験の機会を増やすことなど、課題として明らかになったことを今後の取組の方向性に反映させており、実践の効果を高めている。